



TITLE:

「クロス」の害蟲「ナミゴキブリ」に就きて

AUTHOR(S):

山田, 保治

CITATION:

山田, 保治. 「クロス」の害蟲「ナミゴキブリ」に就きて. 防蟲科學
1940, 4: 4-7

ISSUE DATE:

1940-11

URL:

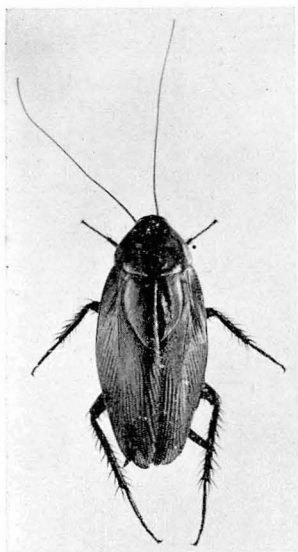
<http://hdl.handle.net/2433/156463>

RIGHT:

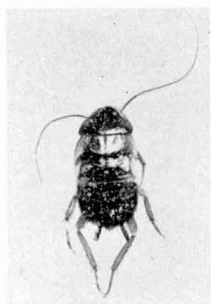
第 四 圖 版 説 明

「ナミゴキブリ」 *Blatta concinna* de Haan. と被害物

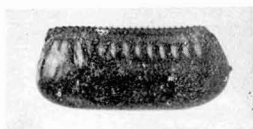
1. 成 蟲。
 2. 卵 塊。
 3. 幼 蟲。
 4. 被害「ブラインド」の一部分。
 5. 被害書籍。
- 1, 3 は略ぼ實大、2 は廓大、4, 5 は縮小。



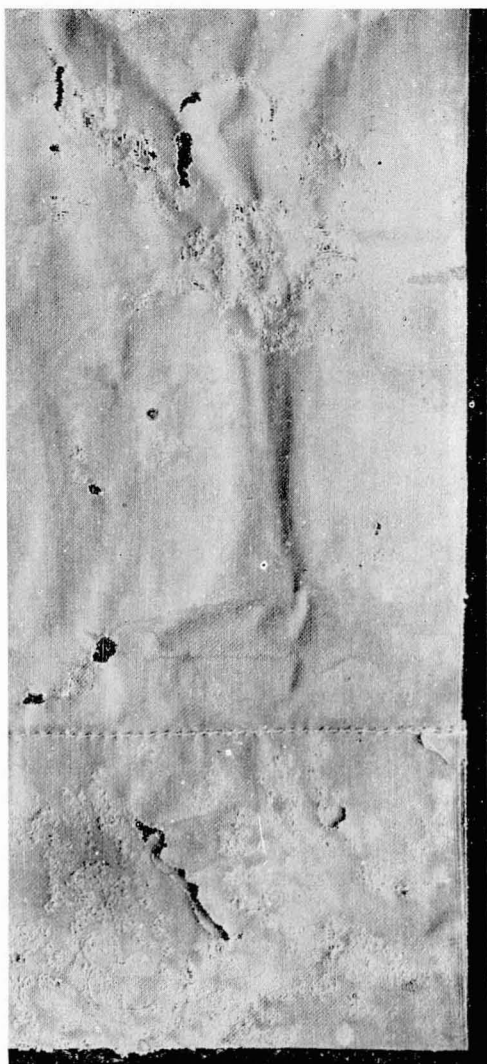
1



3



2



4



5

Y. Yamada & K. Matsuo Photo.

「クロス」の害蟲「ナミゴキブリ」に就きて

山 田 保 治

緒 言

ゴキブリこきぶりの類は一般に油蟲とも言はれて居る。地質學上の古生代石炭紀に於て、既に多數に存在し、現在の昆蟲の現出に先だちて存在したりしことは、化石によりて明らかに證さる處である。現今屋内に棲める「ゴキブリ」の類は上古の家屋に於て、既に人類と同居したるものなるべく、商業の發達に従ひ、航海事業の擴張と共に各地に分布したものであらう。

「ゴキブリ」の類は主に暖國の産で、寒國には少なく、熱帶地方には其種類が極めて多く、従つて、其被害も甚だしい。此類の中には野棲のものもあるが、普通は屋内の厨房に棲息して、幼蟲、成蟲、共に種々の食品を食食する處の所謂臺所の害蟲として知られて居る。處が、近年書籍特に洋式製本の「クロス」が此蟲のために加害せられ、其被害が著しく目立つて來た。^{*}將來は厨房のみならず、圖書館の害蟲として、大いに注意を喚起しなければならない害蟲である。

今から數年前、九大農學部の15周年記念式へ參列した際のこと、同學助教授の小山準二氏から、「ゴキブリ」のために「クロス」が加害され、金文字まで無くなつた被害書籍を見せられ、適當な對策はないものかと相談を受けたことがある。其後斯うした質問を幾回となくあちこちから受けた。京大の吾々の研究室に於ても、大分以前から此蟲のためには幾度となく悩まされ、甚だしいのになると、製本をしなほさなければならぬ様になつたものもある。

米國では、特に大切な書籍の「クロス」には、防蟲加工をして居ると云ふことを、以前或る雜誌で讀んだことがある。我が國に於ても、前述のやうに「クロス」の被害が相當甚だしいのであるから、余は之迄機會ある毎に、「クロス」防蟲加工の必要なることを唱へて來た。今回圖らずも之が實現を見るに至つたことは余の最も喜びとする處である。

次に、我が内地に於て最も普通に「クロス」を加害する「ナミゴキブリ」に就き、余が觀察したる事實と、從來先輩諸氏によりて報告されたる記事を參酌して、此所に其概要を記述することとした。

本文を草するに當つて、寫眞に就き多大なる助力をせられたる松尾薫四郎氏と、本調査に助

* 圖版四參照

力せられたる谷口久代氏に厚く感謝の意を表す。

分類學上の地位と名稱

所 屬 直 翅 目 Orthoptera.
 歩 行 亞 目 Cursoria.
 ごきぶり科 Blattellae.

學 名 *Blatta concinna* de Haan.

異 名 *Stylopyga concinna* Hagh.

和 名 ナミゴキブリ 「ゴキブリ(蜚蠊)」。

分 布

此種の分布として、從來知られて居るのは、日本「本州、四國、九州、朝鮮」である。

形 態

成 蟲

全體が光澤ある黒褐色で、頭部は小さく殆んど前胸下に隠れ、觸角は鞭狀で細長くて體長よりも長い、複眼は光澤ある濃黒褐色で腎臟形をして居る。前胸背は不正圓形で、長さよりも幅が廣く、又前縁は狭く、前胸背の中央部は少しく隆起して此所に僅かの縮紋がある。前後の兩翅は體より遙かに長く、脚は赤褐色を帶び側扁して同色の刺毛が散生して居て、腹部尾端の兩側には2個の大なる角狀附屬物がある。體長25乃至30「ミリメートル」。

「ナミゴキブリ」の卵

卵

卵塊を包圍せる卵殻は茶褐色で、形は長楕圓で平たく、片側の縁には鋸齒が列生して居て其數は27個前後である。

卵殻の中には細長き圓筒形の卵が互ひ違ひに2列に並んで居て、其數は個體によつて相違するが、4個の卵塊に就きて調べた處では表示の如く、1卵塊の中の卵數は21個から27個の間である。而して、1卵塊の長徑は20乃至22「ミリメートル」ある。

摘 要 番 號	1卵塊の中の卵數		
	A 列	B 列	合 計
1	10	11	21
2	12	13	25
3	13	14	27
4	13	14	27
平均 25			

幼 蟲

全體が赤褐色で、成蟲と異なる主な點は、體が小さいことと、無翅であることである。不完全變態をなすので、蛹の時代はない。

經 過 と 習 性

發生が極めて不規則なために、1ヶ年内に於ける世代の回数は不明であるが、1回か或ひは2回發生を繰り返すものでなからうかと思はれる。1年の中で成蟲を最も多く見られるのは、5月頃から11月頃にかけてであつて、卵を普通に見られるのは6月から8月の間である。而して、6月から8月の間に産まれた卵の期間は、表示の如く略々40日間で、越年の状態も不明であるが、從來觀察した處では、相當成長した幼蟲が成蟲で越年するものが多いやうに思はれるけれ

「ナミゴキブリ」の産卵と孵化及び卵の期間

(昭和15年調査)

摘要 番號	産 卵 期 日	孵 化 期 日	卵 の 期 間
1	VI. 14	VII. 27	43 日
2	VII. 1	VIII. 10	40 日
3	VII. 10	VIII. 19	40 日
4	VII. 10	VIII. 19	40 日
平均 40.7 日			

ども、昭和14年11月22日に産まれた卵がある事實によつて考察すると、卵の状態で越年するものもあるやうに考へられる。

成蟲は産むだ卵塊を始め暫らくの間は、腹端に附着したまま、歩き廻つて居るが、適當な場所が見付かると、例へば、臺所の隅とか、食器の間とか、書棚の隅や書籍の

間、等の暗い所に産み付けて置く。幼蟲、成蟲、共に歩行は頗る早く、晝間は、書棚の隅や、種々器物の間、等日光の到達しない暗い所に潜み、夜になると出て來て加害を逞ましくする。又此蟲は、商船、軍艦、汽車、等へも侵入して相當害をする。此他、此蟲は非常に不愉快な惡臭を發するので、蟲が發生すると、此惡臭が食器に附着するので、尙ほ一層嫌はれて居る。

體が扁平であるために、僅かの隙間にでも隠れることが出来る。幼蟲、成蟲、共に雜食性で、厨房に現はれて種々の食物を食食する外に、澱粉や果實までも蝕害し、特に糊は此蟲の最も好む處である。斯のやうな植物性のものの外に、毛織物や革製品を始めとし、昆蟲類の標本など、動物性のものまでも甚だしく加害する。特に「クロス」が加害された時などは、金文字まで臺無しにしてしまひ、製本間のない糊の未だ乾ききらない「クロス」などは、特に被害が著しい。

又、「ブラインド」を加害することが往々ある、之などは糊を特に多く使用されたものに限られて居る様である。

防 除

「クロス」に對しては、別記の如く防蟲加工をすることが最も良い方法と信ずる。

厨房其他此蟲が現出する個所には、糊に少量の砒酸鉛を混じたものを皿などに入れて、猫などの當らない個所に適宜配置して置くと、蟲は糊が好物であるために、之を食べて中毒にかかつて斃死する。

文 獻

- 1、長 野 菊 次 郎 蚱蜢類につきて「抄譯」
 昆蟲世界 第六卷 441—444頁「明治十五年」1902.
 〃 〃 490—493頁 〃 〃
- 2、佐々木 忠次郎 屋内の動物、11—30頁、「明治三十八年」1905.
- 3、名 和 梅 吉 「ゴキブリ」類の驅除豫防法に就きて、
 昆蟲世界 第十六卷 137—140頁、「明治四十五年」1912.
- 4、横 山 桐 郎 最新日本蠶業害蟲全書、109—110頁、「昭和四年」1929.
- 5、名 和 梅 吉 害蟲防除寶典、72—74頁、「昭和四年」1929.
- 6、平 山 修 次 郎 原色千種昆蟲圖譜、第九八圖版、14圖、「昭和八年」1933.
- 7、桑 名 伊 之 吉 新編家庭の害蟲と其防除、93—96頁、「昭和九年」1934.

「終 り」